

公立大学法人埼玉県立大学建設工事最低制限価格制度実施要領

(目的)

第1条 この要領は、公立大学法人埼玉県立大学が発注する建設工事（以下「工事」という。）に係る入札について、最低制限価格制度を実施するために必要な事項を定め、もって適正な履行の確保を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 最低制限価格 公立大学法人埼玉県立大学会計規則第35条第3項の規定により定める価格をいう。
- 二 落札者 予定価格の制限の範囲内の価格で最低制限価格以上の価格をもって入札をした者のうち最低の価格をもって入札をした者をいう。
- 三 決裁権者 公立大学法人埼玉県立大学会計事務取扱規程別表1の決裁区分による決裁権者をいう。
- 四 競争入札 一般競争入札及び指名競争入札をいう。
- 五 下限値 第4条第1項第一号のただし書きにおける10分の7.5及び同条同項第二号における10分の7.5をいう。

(対象となる入札)

第3条 最低制限価格制度の対象は、競争入札を実施する工事とする。ただし、次の各号に定めるものを除く。

- 一 物品等又は特定役務の調達手続に関する公立大学法人埼玉県立大学会計要綱に基づく特定調達契約に係る入札
- 二 総合評価方式による入札

(最低制限価格の設定)

第4条 最低制限価格は、次の各号により定めるものとする。

- 一 予定価格算出の基礎となった次に掲げるアからエの合計額に100分の110を乗じた額とする。ただし、その額が予定価格に10分の9.2を乗じて得た額を超える場合にあっては10分の9.2を乗じた額とし、予定価格に10分の7.5を乗じて得た額に満たない場合にあっては10分の7.5を乗じた額とする。
 - ア 直接工事費の額に10分の9.7を乗じて得た額(円未満切捨て)
 - イ 共通仮設費の額に10分の9を乗じて得た額(円未満切捨て)
 - ウ 現場管理費の額に10分の9を乗じて得た額(円未満切捨て)
 - エ 一般管理費等の額に10分の6.8を乗じて得た額(円未満切捨て)
- 二 決裁権者が特別なものと認めた場合については、第一号にかかわらず、予定価格に10分の7.5から10分の9.2までの範囲内で決裁権者が定める値を乗じた額とする。
- 三 算出に当たっては、第一号のアからエの額を合計した段階で千円未満の端数は切り捨て、端数整理後の額に100分の110を乗じることとする。

また、第一号のただし書きの規定及び第二号の特別なものについては、予定価格の税抜きで計算を行うものとし、千円未満の端数を切り捨て、端数整理後の額に100分の110を乗じた額とする。ただし、下限値を使

う場合、もしくは端数整理後の額が予定価格の税抜きに下限値を乗じた額を下回る場合は、千円未満の端数を切り上げ、端数整理後の額に100分の110を乗じた額とする。

- 2 有価物売却費（控除額として計上されるものをいう。以下同じ。）を直接工事費、共通仮設費、現場管理費又は一般管理費等の各費用の中に計上せず、これら4つの費用とは別に計上した有価物売却費がある建設工事の場合、前項第一号「アからエの合計額」を「アからエの合計額から有価物売却費を控除した額」に、前項第三号「アからエの額を合計した段階で」を「アからエの額を合計し、有価物売却費を控除した段階で」に、それぞれ読み替える。

（予定価格調書への最低制限価格の記載）

第5条 予定価格調書には、予定価格及び入札書比較価格のほかに、「最低制限価格〇〇円」と記載し、さらに、当該最低制限価格に110分の100を乗じて得た金額を「（最低制限価格の110分の100 〇〇円）」と記載するものとする。

（入札参加者への周知）

第6条 入札の執行に当たっては、入札公告等に最低制限価格を設ける旨を記載するものとする。

（落札者の決定）

第7条 予定価格の制限の範囲内の価格で最低制限価格以上の価格をもって入札をした者のうち最低の価格をもって入札をした者を落札者とする。

- 2 第1項の最低の価格をもって入札をした者が複数ある場合、落札者の決定は抽せんによるものとする。

（要領の公表）

第8条 この要領は、公表するものとする。

附 則

- 1 この要領は、令和3年8月1日から施行する。

附 則

- 1 この要領は、令和4年5月1日から施行する。